第４分科会「メディア・教材開発」提案資料
【JICA；国際協力事業団（財）
岐阜県国際交流センター所有資料の活用】

岐阜県各務原市立鵜沼第一小学校
柴山　直美

《　研究主題　》

新しい時代を創造し、国際社会に貢献できる児童生徒の育成

～　国際感覚を磨く実践を目指して　～

１．はじめに

国際教育がうたわれ始めてどれくらいたったのだろうか？『総合的な学習の時間』が実施され、その実施例として国際理解教育があげられている。なるほど、町を歩けばこの岐阜県にも外国人がよく見られるようになった。それもアメリカだけでなく、ヨーロッパから、南米から、アフリカから、アジアの各国から・・・と様々である。各務原市にも、住人のほとんどがブラジル国籍の人というアパートがある。数年前と比べると、大きな変わり様である。裏を返せば、それくらい日本という国が世界に知れ渡ったということ、外国の人にとって日本は外貨を稼ぐことができる国になったということが伺える。そんな大きな状況の変化を目の前にして、否が応にでも日本が国際的な立場に立たなくてはならなくなってきた背景があるのだろう。

国際理解教育の中で今大きく実践されているのが、国際交流、外国語教育である。どちらも目的は、外国人と触れ合う機会を体験すればいいとか、外国語を取得して受験に備えるといった目的ではない。交流によってお互いを理解し合い、共に生きていく方法を考えるとか、外国語を取得し、同じ地球上で共に生きていく方法を話し合う・・・人権・平和・環境・異文化教育など行き着くところは地球規模に立った国際感覚を養うところにあるとわたしは考える。

本校には外国籍の児童は一人もいない。校区内で外国の人を見かけることも少ない。身近な外国の人といえば、せいぜい学期に１回みえる「英語に親しむ時間」のネイティブの先生ぐらいである。そんな子どもたちに、外国の生活習慣、文化や生き様を理解させることは難しい。いくら外国のことを話したり、物を見せたりしても、子どもたち自身にどれだけ外国のことに興味があるかで受け取り方が弱くなってしまうこともある。小学校１年生の段階で、日本以外の様々な国を見てみたいという外国に興味のあると思われる子はほとんどいない。増して、本校では、日本人から外国の話を聞いただけで外国に興味を持つ子が増えるとは思えないのである。

そこで、岐阜県国際理解教育研究部の研究主題を受けて私なりに１年生の段階における『国際感覚を磨く実践』の条件を次のように考えてみた。

- ◆　体験自体を楽しむことのできる参加型であること。（態度）
- ◆　自分とは違う生活や考え方があることを知ることができること。（知識）
- ◆　日本はもちろん、日本以外の国々に興味を持たせることができるもの。（興味・関心）

そして、この実践を通して、児童が外国に目を向けるきっかけを作ってやりたいと思ったのである。

２．実践　～第１学年『外国ってどんなところ？』～

ねらい
外国の生活を体験する事を通して、自分の生活との違いに気づき、外国に興味を持つことができる。

実践①　アフリカのサッカー　（45分）

『FIFA ワールドカップサッカー　2002』が韓国・日本で開催され、子ども達の周りにこれまでになく多くの外国名が飛び交っている。また、わがクラスでは、１年生ながらもサッカースポーツ少年団に所属し、サッカーに興味を持っている子も少なくない。そこで、この時期を利用し、子ども達の興味を大いに引くと思われるサッカーを外国の生活体験として取り上げてみることにした。

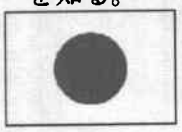
	ねらい	学習活動	留意点
気づく	資料を見て自分の生活と比べ、違いやにていることを見つけることができる。	1．国旗を見てどこの国かを予想し、国の位置や国旗の意味を知る。 セネガルの国旗の緑は農業と希望、黄は富、赤は独立時の苦難と血、星はシンボル。 2．写真を見て気がついたことを話し合う。 写真　A（別紙） 肌が黒いね。 裸で服を着ていないよ。 裸足で靴を履いていないね。 足の裏は僕たちと一緒で白いね。	・ワールドカップで児童がよく耳にする国を挙げ、身近なイメージを持たせる。
体験する	アフリカの子どもたちのサッカーを体験し、自分の生活と比べることができる。	3．アフリカでの人々の生活の話を聞く。 アフリカの人も靴は持っている。 靴は、学校へ行く時、教会に行く時、パーティーの時など特別な時に履く革靴が多い。 小学生も学校では靴を履いているけど、家に帰ってくるとすぐにぞうりや裸足になる。 それでサッカーもしてしまう。 4．裸足、またはぞうりでサッカーやってみる。 裸足でサッカーやると、足の裏は痛いし、思い切りボールをけれないな。 ぞうりでサッカーするとぬげそうで走りにくいよ。さっき転びそうになったよ。思い切り走れないよ。	・生活の貧困さを強調しないようにする。
振り返る	体験を振り返り、自分と違う生活の仕方があることを理解し、外国に興味を持つことができる。	5．学習の感想を書く。 アフリカ人になってサンダルでサッカーをやったらちょっと遅いと思った。疲れたよ。 靴と裸足と比べて靴のほうがやりやすかったよ。 走るときも蹴るときも足が痛かったけど、楽しかったよ。思い通りに蹴れなくてちょっとやりにくかった。 裸足でやってみました。足が痛かったです。アフリカの人は何もはかなくてもできるのかなと思いました。 もっといろんな国のやり方を知って、大きくなったら私はほかの国へ行くのでそのときが楽しみです。	・世界中にはいろいろな国があり、いろいろな人が住んでいて、いろいろなやり方や考え方があることを押さえる。 ・思ったことを自由に書かせ、思いの違いも認め合えるように配慮する。

実践②　トルコのお祈り　（45分／1日）

『アフリカのサッカー』の授業後、休み時間にM子がこんなことを言ってきた。

「先生、テレビを見たら、たくさんの外国の人が座って頭を地面につけていたよ。」

どうやら中東の国の様子をテレビで見たようだ。中東和平は現在、世界が一番注目するところである。そして、中東の人たちの考え方とイスラム教は切っても切り離せない。M子の一言を世界へ目を向けさせるよい機会と思い、イスラム教について取り上げることにした。

	ねらい	学習活動	留意点
気づく	（朝の会） 資料を見て自分の生活と比べ、違いやにていることを見つけることができる。	1．日本のお祈りについて話し合う。 2．国旗を見てどこの国かを予想し、国の位置や国旗の意味を知る。  トルコの国旗の新月は善、星は幸福。 3．写真を見て気がついたことを話し合う。 写真　B （別紙） みんな下を向いていて、お尻だけがみえるよ。 王様にあいさつしているみたい。 何か変な感じ。	・日本の国旗も提示し、日の丸の意味も確認する。 ・ワールドカップで児童が良く耳にする国を挙げ、身近なイメージを持たせる。
体験する	（1日の中で） トルコの人々のお祈りを体験し、自分の生活と比べることができる。	4．トルコのお祈りの話を聞く。 イスラム教の教え 1日に5回お祈りをして、神様と話をする。 お祈りの仕方は3回コーランの部分をいいながら、写真の通り床にひれ伏します。 お祈りの時は、みんな真剣にします。 これを毎日忘れることなくやっています。 4．1日5回のお祈りの計画を立て、やってみる。 ①　9：00（朝の会後） ②　10：30（20分休み中） ③　12：30（給食時間中） ④　13：30（掃除時間中） ⑤　14：30（帰りの会中）	・イスラム教の不便さを強調することなく、それがトルコの人々にとっては当たり前のことやうれしいことであることも話す。
振り返る	（帰りの会） 体験を振り返り、自分と違う生活の仕方があることを理解し、外国に興味を持つことができる。	5．学習の感想を書く。 トルコ人になってお祈りをしたよ。ちょっと変だったよ。でも、笑ったらだめだから笑わずにやったよ。 トルコ人になったつもりでお祈りを5回もしました。トルコ人は毎日するから大変だなと思いました。 私はお祈りをして楽しかったです。でも、トルコのお祈りは顔を床に近づけなくちゃいけないからいやなところもあったよ。 お祈りは楽しかったよ。また、やりたいよ。でもトルコの子はかわいそうだよ。だってずっとお祈りをしているから寂しそうだよ。 トルコのお祈りは私たちの国とは違うお祈りの仕方だったよ。ちょっとビックリしました。時間になったらやるからちょっとかわいそうだね。	・偏った意見にならぬよう、思ったことを自由に書かせる。 ・外国のことに目を向けていこうという態度を位置づける。 ・世界中にはいろいろな国があり、いろいろな人が住んでいて、いろいろなやり方や考え方があることを押さえる。

実践③　セント・ルシアのバレンタインデー　（45分／1日）

２月になると１年生の子供たちの間でも、「わたしは○○君にチョコレートをあげるよ」「僕は幼稚園の時○○ちゃんからもらったよ」などとバレンタインデーの話題でもちきりになった。しかし、子供たちは本当のバレンタインデーの意味を知らない。日本における風習だけをまねている。そこで、バレンタインデーの意味を知らせるとともに、同じバレンタインデーでも国や地域によって様々なやり方があることに気づかせたいと思い、バレンタインデーを取り上げてみることにした。

	ねらい	学習活動	留意点
気づく	（前日45分） 資料を見て自分の生活と比べ、違いやにていることを見つけることができる。	1．自分たちの知っているバレンタインデーについて話し合う。 女の子から男の子にチョコレートをプレゼントするんだよ。 恋人の日っておねえちゃんが言っていたよ。 チョコレートをプレゼントするのは日本だけってテレビで見たよ。 チョコレートをあげたら、好きっていうことなんだよ。	・幼稚園の時に自分がしたこと、おうちの人の言動、メディアを介してなどいろいろな場を挙げ、想像することや知っていることを自由に発言させる。
		2．国旗を見てどこの国かを予想し、国の位置や国旗の意味を知る。 セント・ルシアの国旗の青はカリブ海、白はキリスト教、黒は黒人、黄色はバナナ産業。山は双子の山ピトン山。	・児童があまり耳にしない国を挙げ、身近でない国でもバレンタインデーがあることに気づかせ、これからの体験学習への意欲を持たせる。
		3．ビデオ（NHK週刊こどもニュースより）を見てバレンタインデーの由来を知り、セント・ルシアのバレンタインデーのやり方を聞く。 バレンタインデーの日には、赤いものを身に付ける。 お世話になっている人にお礼のメッセージカードを贈る。 カードをもらった人は、そのカードを身に付ける。	
体験する	（当日45分） セント・ルシアのバレンタインデーを体験し、自分の生活と比べることができる。	4．自分が身に付けてきた赤いものを紹介し合い、ありがとうカードをお世話になっている人に書く。 	・これまでの道徳の授業で「尊敬・感謝」について学習しておき、バレンタインデーのありがとうカードにつなげる。（心のノートP45の使用）
振り返る	体験を振り返り、自分と違う生活の仕方があることを理解し、外国に興味を持つことができる。	5．学習の感想を書く チョコレートではないけど、たくさんの友達からありがとうカードをもらってうれしかったよ。 本当のバレンタインデーは、男の子でも女の子でもみんなで楽しめることがわかった。 ありがとうカードを友達や先生にわたしたら、喜んでくれたよ。家に帰ったら、お母さんとお父さんにもわたすよ。 楽しかったです。外国のことがわかってよかったです。これからも外国のことをたくさんやってみたいです。	・世界中にはいろいろな国があり、いろいろな人が住んでいて、いろいろなやり方や考え方があることを押さえる。

3．おわりに

手探りの状態で実践を行ってみたが、普段の学校生活の中では伺い知れない子どもたちの姿を見ることができた。

（1）成果

①実際に体験をさせることについて

ア．　外国に興味のない子も活動そのものを楽しむことができた。
イ．　その国の不便さや貧困さだけに目を向けさせることがなく、同じレベルで考えることができた。
ウ．　自分たちのやり方と比べて考えることができ、自分たちの生活が普遍ではないという意識改革ができた。
エ．　もともと外国に興味のあった子は、国際的な自分の夢を思い浮かべることができた。

②写真や国旗を使用したことについて

ア．　どの国の国旗にも意味があることを知ることができた。
イ．　外国だけでなく、日本の国旗の意味も学習する場となった。
ウ．　写真から外国のイメージがしやすくなり、多くの生活の違いを出すことができた。

日常生活の会話の中で外国に興味を示すような話題が聞かれるようになったことや、子どもたちの感想の内容、感想を書く態度、学習に取り組む表情からも、この実践で外国へ目を向けさせるきっかけを子どもたちに与えることができたと思う。また、実際に外国の人を招いて交流や主題研究による実践でもなく、多くの準備も必要としない実践でも、ねらいをはっきりさせ、子供たちの身近な事柄から興味のある事柄を題材として選んだことで、子どもたちから様々な考えや感想を引き出すことができた。

アフリカのサッカーでは、アフリカの写真を提示した時、多くの子が『肌が黒い』と言った。メディアが発達してテレビや写真で見慣れていると思ったが、やはり大人が思うほどではない子どもたちの実態であった。そんな無垢な子どもたちだからこそ、素直に異文化を受け入れることができるのであろう。教師側から与える一方的なものではなく、これからも子供たち側の意識に立った実践を練っていきたい。

トルコのお祈りでは、お祈りが寂しいという子が数人いた。初めはなぜかと疑問に思ったが、よくよく考えてみれば、日本の子どもたちがお祈りするのは葬式や法事などの時である。子どもたちの意外な発想に驚いた。子どもたちが異文化を体験する時の基準となるのは、当然母国日本の生活文化である。これがあるから違いを感じることができるのである。だからこそ、子どもたちに母国日本の文化を伝え、大切にさせたい。

セント・ルシアのバレンタインでーでは、道徳学習との関連を図りながらタイミングよく実践することができた。誰一人として赤いものを身につけてくることを忘れなかったことからも、子供たちが体験活動を楽しみにしていたことがよく分かる。自分たちのやり方を大切にしながら、やり方は違っても、その国や土地に合ったやり方を受け入れようとする気持ちやそれに順応する力も国際理解教育で培っていきたい。

（2）今後の課題

①視覚的教材について

授業のねらいに応じて、写真だけでなく、ビデオ、外国の人の話、本などさまざまな教具を活用することが大切である。

どれに頼りすぎても情報のステレオタイプ（一方的な思い込み）を起こしかねない。ものごとの根底には幅広い異文化があることを指導者自らがしっかりと意識し、ねらいをはっきりさせたうえで、より有効な教材を準備することが大切である。

②体験活動について

子供たちに共生土台ができたうえで、外国の人との直接交流を通した生きた異文化体験をさせてやりたい。

今回は、日本人の私にでもできる架空の体験活動であった。外国に目が向き始めた児童たち、外国の人を受け入れられる気持ちができた子供たちだからこそ、次は相手のある体験、本物に触れる機会を与えてやりたい。

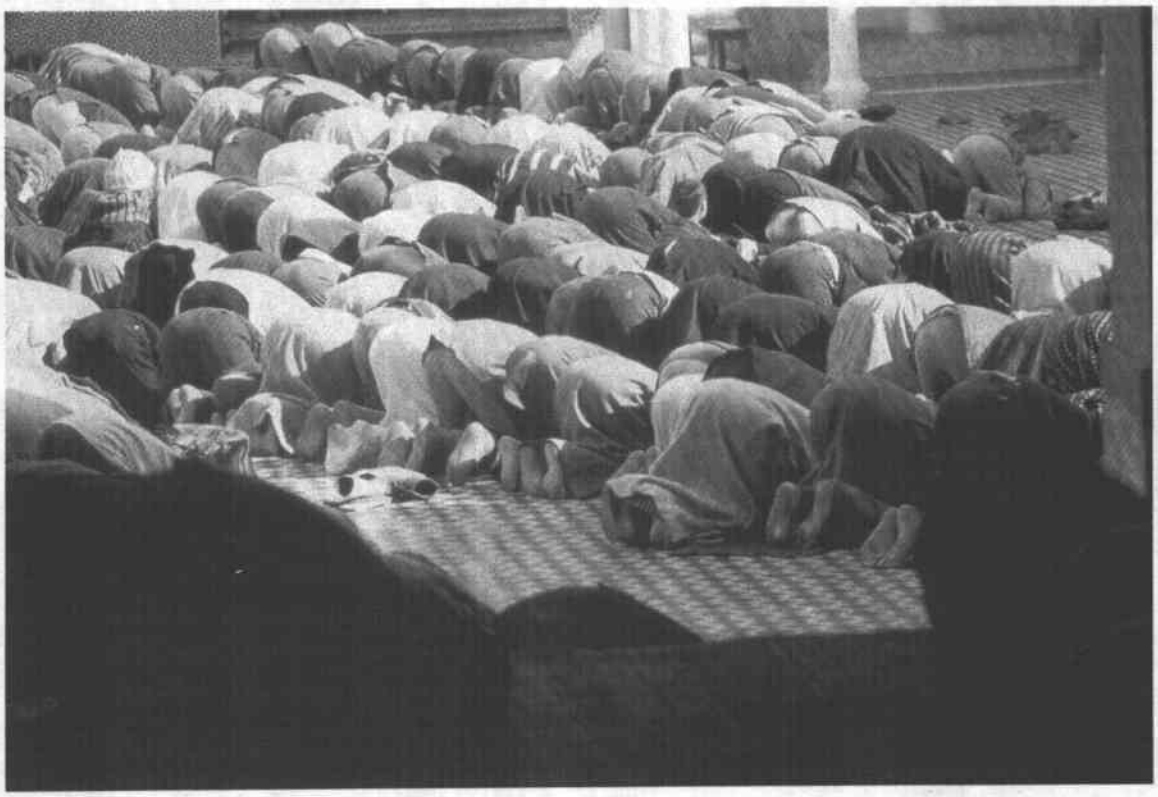
③これからの国際理解教育のあり方について

国際理解教育をどのように発展させていくかを考えていくことが必要である。

人権教育・異文化教育・平和教育・環境教育などをどのように関わらせていくのか、発展させていくのか。そこに国際理解教育を通して子ども達に何を学ばせるかを明確にしていくポイントがあると思われる。外国の人たちと地球上の問題について、よりよい生き方をめざして、同じレベルで一緒に考えていける子供たちを育てていく必要性を痛感した。

以上、私は今回のこれらの実践から、国際理解教育・開発教育の大切さを再認識することができた。

資料１　写真Ａ（上段）・Ｂ（下段）



参考　教材の入手について

ＪＩＣＡ国際協力事業団（財）
岐阜県国際交流センター　http://www.gic.gifu-net.jp/　（岐阜県県民ふれあい会館６階）
TEL 058-277-1013　担当：古田敦子さん　いつでも電話くださいとのことです！

資料１「ありがとうがいっぱい」文部科学省　心のノート小学校１・２年　P45 より

ありがとうが　いっぱい

ありがとうカードを　あげよう

いえや　学校や　ちいきの　中で
いつも　おせわに　なって　いる　人に
ありがとうカードを　わたそう。

ありがとうの　気もちを　おぼえて　いられるように
カードを　あげた　人を　きろくして　おこう。

あげた　人

日にち　　月　　日

どんな　ことで

あげた　人

日にち　　月　　日

どんな　ことで

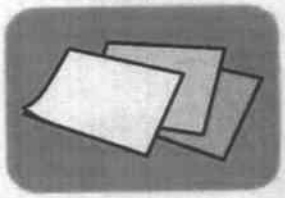
あげた　人

日にち　　月　　日

どんな　ことで

ありがとうカードの　つくりかた

❶ カードの　かみを　よういする



どんな　かみでも　いいよ。

❷ あい手の　名まえを　かく

❸ こころを　こめて
「ありがとう」と　かく

どんなことを　して　くれたのかも
かくと　いいよ。

❹ あなたの　名まえを　かく

❺ きょうの　日づけを　かく